

# ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 628

2024. 8



03 旧築地市場跡地に眠る天下の名園 「浴恩園」を再生しよう！	丸谷博男
07 出水市麓武家屋敷群の概要と保存・活用	石原重治
10 アカシアの家 ファンハウス見学会報告	澤田大樹
11 会員通信 はじめまして	武市望奈代
12 地球温暖化について考える 第46回	渡辺政利
14 快適マンションライフ展 報告	山下千佳
16 鋸屋根に魅せられて 群馬県富岡市	吉田敬子
18 アジアンニュース No.19	T N

**今月の表紙** 提供：丸谷博男  
 旧浜離宮庭園の北側に、江戸時代（文政12年〈1829〉に焼失あり）から関東大震災後（東京市中央卸売市場築地本場の建設工事に伴って埋め立て）まで、約1万7千坪余りの松平家屋敷内に作庭された池泉回遊式庭園が存在していました。現在は東京都指定の旧跡「浴恩園跡」（大正15年に史蹟指定、昭和30年に都条例改正により旧跡指定）となっています。  
 （中央区・区内の文化財より引用）

## Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

### 東京支部

- ◎08/06 火 18:30 拡大常任幹事会+暑気払い @住まい・まちづくりデザインワークス
- ◎09/10 火 18:30 常任幹事会 @新建事務所

### 全国

- ◎08/03 土 16:00 第14回子ども環境研究会「リアル保育園を布川園長から聞く」 @ZOOM
- ◎08/09 金 19:00 新建災害復興支援会議 能登半島地震支援本部会議 @ZOOM
- ◎08/05 月 19:00 【研究集会】環境分科会準備 @ZOOM
- ◎08/30 金-09/01 日 建まちセミナー @那須まちづくり広場（栃木）
- ◎09/14 土 全国幹事会 @ZOOM
- ◎11/30 土-12/2 月 研究集会 @奈良

### 会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください

- ◆08/05 月 19:00 震災研復興セミナー第39回東日本大震災の経験と能登復興（1） @ZOOM  
「能登復興で集約的まちづくりを提起した財政審分科会の意図」（山下）
- ◆08/22 木 19:00 春夏秋冬のある暮らし「木を水中で乾かす」 @市ヶ谷 DNP プラザ+ZOOM（金田）

建築とまちづくりセミナー-in 那須 <https://nu-ae.com/20240830nasu/> 申し込みは8/10まで



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ [foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp](mailto:foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp)

2024年6月23日に千葉県市川市で『浴恩園の再生』が文化財保存全国協議会 第54回市川大会で決議されました。

## 「都旧跡『浴恩園跡』の保存と再生を求める決議」

要望①現地再生のための本調査実施と公園のための活用

要望②潮入の5つの庭園群の世界遺産化による活用

「旧芝離宮庭園+浜離宮恩賜庭園+旧浴恩園+清澄庭園+旧安田庭園」

要望③持続可能な築地浴恩園下屋敷を未来の子どもたちの公園・防災公園へ！

宛先は文化庁長官・都倉俊一、東京都知事・小池百合子、東京都教育委員会教育長 浜・佳葉子、中央区長・山本泰人、中央区教育委員会教育長・平林浩樹、中央区議会議長・瓜生正高様

[http://bunzenkyou.jp/posts/product\\_archive.html](http://bunzenkyou.jp/posts/product_archive.html)

新建東京支部代表幹事 丸谷博男

築地市場跡地は、東京都民・中央区民にとって二度と得ることのできない貴重なオープンスペース！建物を作るのは、いつでもどこでもできること！天下の名園「浴恩園」を秘めた築地市場跡地に、防災都民広場・自由奔放なこども広場が一番良い！未来を担うこども達のために一千年に渡って響来続ける「価値」を創造しましょう！目先の金銭にとらわれることなく！最も価値のあるものはお金ではなく、水と緑のオープンスペースです！

この「浴恩園」を作庭した「寛永の改革」を実行した老中松平定信公は、日本国と東京を明治から昭和に渡って作り上げた経済と福祉の父である渋沢栄一が一番尊崇した江戸時代の大名です。江戸時代に大名庭園を庶民に公開していた「公園」の先駆者でもあったのです。また、江戸時代は、園芸が武士から商人にまで普及し、さまざまな品種改良がなされた時代でもありました。まさに園芸は平和の時代の象徴でもあります。一方、ロシアなどの大陸の列強の圧力も迫っていた国防への危機を感じ始めていた時代でもありました。定信公は、故郷の白河藩においても「南湖」を開発作庭し、土木工事による労働者の雇用と庶民への庭園の公開とともに、武士の水練の場として人工湖を位置付けてもいました。この並外れた国家意識、世界観、そして文芸や園芸、作庭に天才的な才能を発揮し、後世に残した足跡は唯一無二の功績です。

以上のような意味から、心より安易な開発にstopをかけ、一千年の思いを馳せ、浴恩園再生と東京を救う防災広場としての役割を、この築地市場跡地に提案いたします。開運に都合の良い船着場は、災害時の物資の搬出入先としても絶好の位置にあります。度重ねて起きた江戸の大火にも、ここの船着場が物量の拠点となりました。



「江戸浴恩園全圖」に描かれている浴恩園。回遊式庭園で、図では右に「春風の池」と左に「秋風の池」の周囲を一周しながら庭を鑑賞した。築山も作られ、池の小島には橋をかけて渡れるようになっている。（国立国会図書館所蔵）

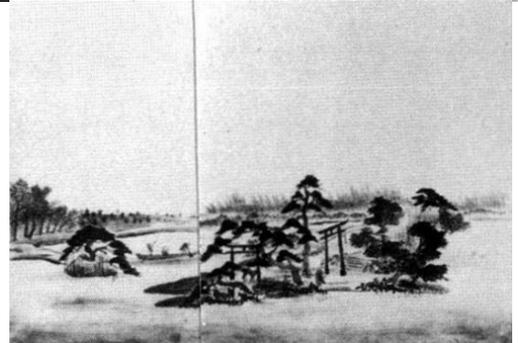
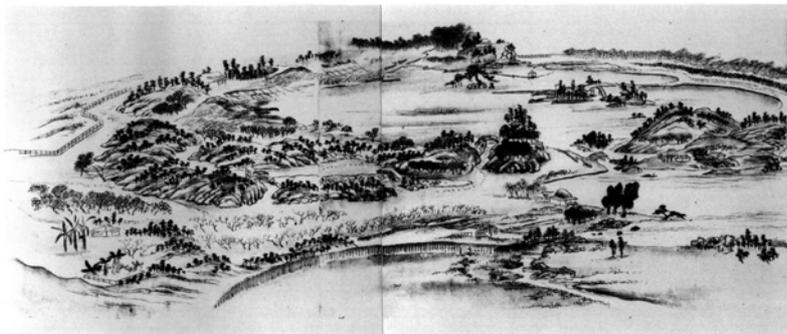


図3 筆者不明「浴恩園図並和歌」巻（巻頭部分）国立国会図書館蔵

## 築地市場跡地の浴恩園再生・防災広場のイメージ



東京都指定旧跡  
浴恩園跡  
よくらんえんじ

所在地 中央区新富町三丁目  
築 大正五年四月九日  
指定 昭和三十二年  
昭和三十二年三月

浴恩園は、江戸時代後期の寛政の改革で著名な松平定信（一七五八～一八一九）の下屋敷に作られた庭園です。寛政四年（一七九二）に一橋家の一部約一万七千坪余を賜り、園内には春風池、秋風池、築山などが配られ、風光明媚で林泉に富み、浴恩園と名付けられた沙入廻遊式庭園でした。明治維新以降は海軍関係の用地となり、海軍兵隊の地ともされます。関東大震災で被害を受け、その後、日本橋にあった地所が移転してきて、現在に至ります。

平成二十四年三月 改定 東京都教育委員会

文化財を大切にしましょう



# 「楽翁公伝」 渋沢栄一著

## 自序・第1116頁

### 昭和12年11月刊



## 是非、渋沢栄一翁のこの言葉を聴いていただきたい！

茲ここに私の名を以て楽翁公伝を刊行するに当り、聊いささかその由来を述べて著者としての責任を明かにして置きたい。

- 私が深く楽翁公の徳業を欽慕するのと、現今の世態が、頗る公の如き公明忠正なる政治家を必要とする秋であると感じたからである。
- 明治六年に官を辞し第一国立銀行の経営に任じて間もなく、時の東京府知事大久保一翁氏から、江戸幕府時代からの積立金（七分積金）として東京府に保管せられて居る共有金、一名七分金の取締の一人に挙げられた時からである。
- 私に共有金の取締を囑託せられたのは、それらの関係からであらうが、私はこれが為め今日に至るまで、引続き東京市養育院の経営に当ることゝなつた。
- 随つて文明国の都市として、かかる浮浪の徒を放置することは出来ぬといふので、遂にそれらの者を一箇所に收容することになり、こゝに始めて社会的施設に手を染めたのであつて、これが即ち東京市養育院の起原である。
- かく共有金は養育院の費用となつたばかりでなく、その前後に於て、東京の道路・橋梁・墓地・瓦斯等の施設を始め、種々の公共的事業に用ひられて大に効果を挙げたが、私は抑々この共有金なるものは如何なる性質の金であらうかと考へて、その後 養育院幹事の安達憲忠氏をしてその由来を調査せしめたところ、これこそ天明・寛政年間に於ける幕府の老中松平越中守定信、即ち楽翁公の善政の余沢であることを明かにした。
- 公は江戸各町町費の節約を促し、それによつて得た金額の中、二分を地主の所得とし、一分を予備費として、若しその予備費が不用に歸したる時は、これを家主の所得となさしめ、その残りの七分を、江戸町民不時の用途に充てる為め、積立金として貯蓄したもので、それが明治時代まで遺されて居たのである。その金額は、地所・金穀を合して大約百四十余万円であつたと思ふ。
- 公が老中の職に在られたのは、三十歳から三十六歳に至るまで僅に六年余りに過ぎなかつたが、果して推薦者の期待に負かず、能くその経綸を行ひ、抱負を実現して、かの所謂寛政の治績を挙げられた。即ち幕府の財政を改革し、奢侈の風俗を匡正し、文武を奨励し、窮民を救助し、浮浪の徒をして職を得しめる等、その政治上の功績は誠に驚歎すべきものである。
- 「宇下の人言」それには、七歳から読書し、十一・二歳にて歌を詠じ詩を賦し、また「自教鑑」を著して自ら戒められたることなどを始めとし、老中に任じて天下の大政に執掌せられた前後の事に至るまで、その時々的心情があからさまに記されてあつたので、私はそれによつて、公が少年の頃から博く和漢の学を修め、識見高く、志操確乎として、修身齊家はいふも更なり、治国平天下の道に深く心を用ひられたこと、趣味豊かにして人情も濃かに、而も尊王の志極めて厚く、誠に古今に比類稀なる御方であつたことを知つて、益々その崇高なる人格に敬服するやうになつたのである。これを要するに、公は天賦の英傑である上に、切磋琢磨の功を積んで、あの大人格を玉成せられたのである。
- 公は老中を退いて後は、溜の間詰を命ぜられて、幕政諮詢の員に備はつて居られたのであるけれども、幕府の政治には殆ど関与せず、専ら藩治に勉められ、傍ら文学・芸術に親み、また兵事・有職故実・本草学などにも深い研究を積んで、幾多の有益なる著述をせられた。
- 私は自分の専管する東京市養育院が、公の遺沢によつて成つたのを感じて、明治四十三年以来、毎年公の忌辰たる五月十三日に、養育院に於て記念会を催して、祭典を執行し、且つ学者を聘して講演会を開きなどして来たが、此の如き盛徳ある楽翁公でありながら、未だ詳しい伝記が世に出て居ないので、私は深くこれを遺憾に思ひ、正確なる伝記を編纂したいと考へた。

## 出水市麓武家屋敷群の概要と保存・活用について

新建東京支部 石原重治

鹿児島県出水市の出水麓（ふもと）は、江戸時代の初期に武士の居住地を兼ねた陣地として薩摩藩により造成され、四百年の年月を経た現在でも、石垣と生垣・武家門を中心とした往時をしのばせる景観が保たれている。

それは、地元の武家屋敷保存会（現在の「出水麓街なみ保存会」）を中心に、良好な景観を保存しようという活動が住民主導で続けられてきた成果である。そのこともあって、出水市は、1976（昭和51）年「出水市麓武家屋敷」を市指定史跡に指定し、1989（平成元）年に「出水麓伝統的建築物群保存対策調査」を実施するとともに、1995（平成7）年には「出水麓伝統的建築物群保存地区」の決定が行われた。

そして、1996（平成8）年「竹添邸（右の写真）」が一般公開、2008（平成20）年NHK大河ドラマ「篤姫」ロケ地として全国放映、2011（平成23）年には「税所（さいしょ）邸」も一般公開されて、2019（令和元）年、「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」が日本遺産に認定されている。

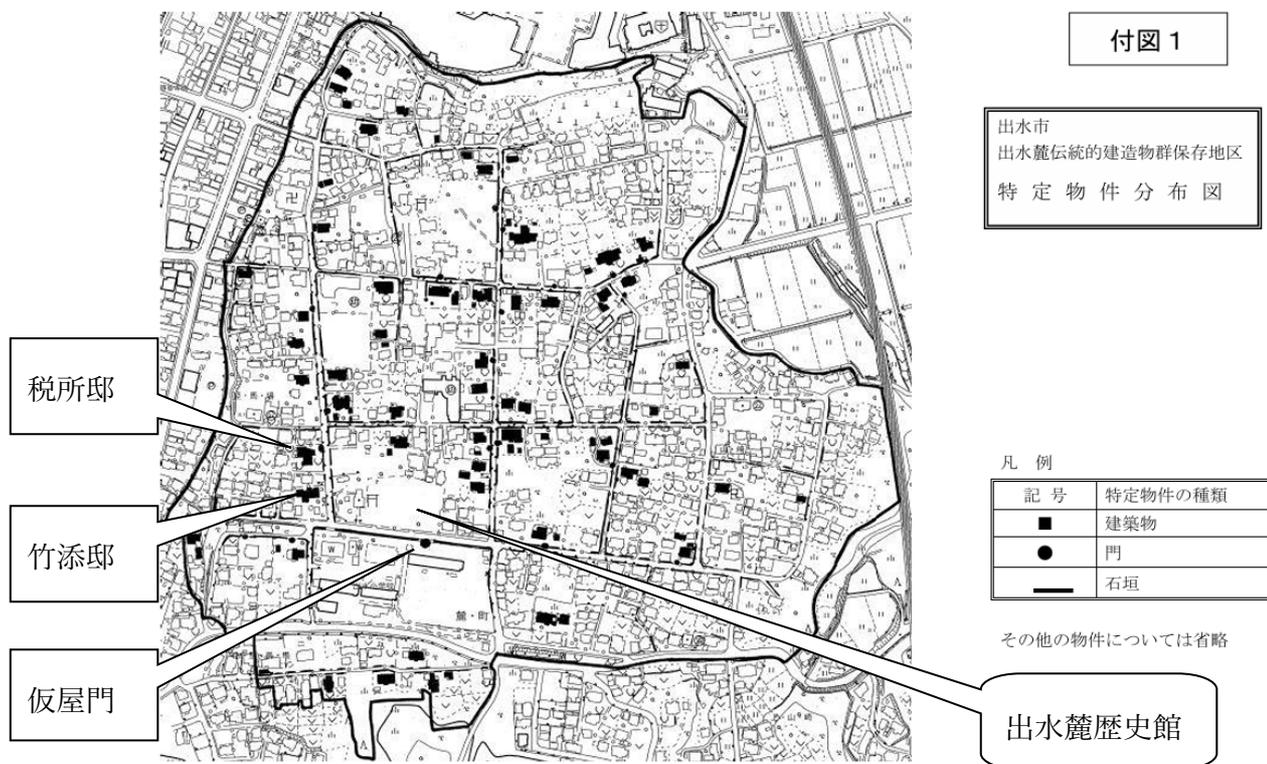


現存する武家屋敷は、一般的に住宅、事業用に使われているのが大半であるが、1995（平成7）年、武家屋敷群が文化庁「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたことで、伝統的建造物群保存地区制度の適用を受けるので、①修理や復旧を行うことによって健全な状態の維持保全を図ること②（伝統的建造物以外の建造物であっても）外観の変更の規制をかけ、保存地区の街なみを維持・向上させ、将来世代に引き継いでいくことが求められている。これを実現するため、平成18年3月、出水市伝統的建造物群保存地区保存条例並びに出水市出水麓伝統的建造物群保存地区保存活用計画が定められている。

このように、保存と活用に関しては制度や屋敷内や家屋内も見学できる「公開武家屋敷」、2017（平成29）年に開館した「出水麓歴史館」など研究・学習のための施設も充実してきた。また、観光資源として、宿泊施設などに利用できるように修復・リニューアルしているところも複数か所ある。

今回は、私の出身地域の鹿児島県出水市で設計・補償コンサルタント事務所長で、最近、新建会員になられた中村さんから、本年4月に全国メールで「出水市より、武家屋敷等古民家の耐震診断業務の見積依頼がありました。古民家などの診断業務は未だやったことが無く、対応に苦慮しています。一般の木造住宅などは経験済ですが、古民家などについて、先例とか手掛かりになるようなものを教えてほしい」との連絡に対して、素人にも関わらずに早とちりに応じたことが発端で、中村さんとお会いしてお話を伺ったり、現地調査や関係文書を調べた段階でまとめたものであるが、

伝統的建造物の文化財として修復・保存・活用、耐震診断や補強・修復などの現状や課題も垣間見ることが出来た。なお、この分野には詳しい方も多いと思うので、助言・意見もお願いしたい。



○武家屋敷の範囲・分布は、出水市出水麓伝統的建造物群保存地区保存活用計画の付図による。

○地図の上が北側 JR九州新幹線出水駅及び肥薩おれんじ鉄道出水駅から徒歩 25～30 分、タクシー 5 分

(竹添邸の配置図)

(小屋組及び天井の修復状況)



## (出水麓武家屋敷群の詳細)

- 郷士の住む場所を麓（ふもと）といい、出水の麓は、関ヶ原の役のころから三十年ほどかけて城山から続く丘陵地を整地して造られた住宅兼陣地、政治上の中心地でもある。平良川から西の向江、大川内などの八ヶ外城とは区別して、麓衆中（ふもとしゅじゅう）と呼ばれる。麓（出水外城）の組織は、藩から派遣された地頭（1名）の下に、郷士の中から選ばれる噺（あつかい・郷士年寄）・横目・与頭（くみがしら）の三役（各6名ずつ）で構成されていた。
- 九州制覇のため多くの武士を抱えていた薩摩藩では、江戸時代も藩境の守りを固めるなどのために、鶴丸城下には主だった家臣たちを置いて城下士とし、ほかは藩内に百二の外城を置き、郷士として農業をさせながら住まわせていた。郷士の給与（禄）は低く、18世紀末の軍役高帳によると麓衆中のうちの三分の一ほどの高持でも平均禄高は粃で10.8石\*、外城衆中（麓以外に配置された郷士）は、5.2石\*ほどだった。郷士たちは、普段は農業に従事し、さらに無禄の者は自らが開墾したり、大工・左官・鍛冶・染物屋・桶屋などで暮らして、いざという時にそなえていた。
- 約150戸の屋敷群の総面積は約60ヘクタールで、明治時代以後も全体の広さは変わらないが、生活の変化や相続などを経て、現在では各屋敷の広さは縮小している。元々の屋敷の平均面積は五百坪ほど、広いところは千坪あり、主屋・蔵・作業小屋などの家屋、畑作地と雑木林・竹林などが丸石垣と生垣・武家門で囲まれ、整然と整備された道路と屋敷の配置は往時と変わらない。
- 現存する主な武家屋敷の建築年代は、伊藤邸が最も古く、税所（さいしょ）邸は270年ほど前、伊牟田邸は19世紀前半、竹添邸は明治時代初期ころと推定されている。

\* 1石は、1食あたり1合×3×365日=1095⇔約1000合、大人一人を一年間養える食料（費）に相当する。

(出典) 出水の文化財（平成14年3月再改訂出版）及び出水麓歴史館の展示資料による。



(税所邸の客間入口と庭先)

# アカシアの家 ファンハウス見学会報告 —地域で支え合うということ—

新建東京支部 企画部

澤田 大樹

2024年7月19日(金)、東京支部としては久しぶりとなる企画が展開されました。埼玉県三郷市にある、「アカシアの家ファンハウス」という認知症高齢者共同生活介護施設です。昨年末の支部実践報告会で、とも企画設計の村上久美子さんから報告いただいたこの施設について、当日の交流会で「実際に皆で見学に行かせてもらおうよ」と話題になったことが、本企画の構想が始まるきっかけでした。

## 1. 施設の位置づけと入居者の暮らし

JR 武蔵野線「新三郷」駅よりバスで5分、そこから加えて徒歩5分程の市街化調整区域内に計画されたファンハウスは、周囲を学校や田んぼに囲まれています。さほど遠くないところには産業廃棄物処理場などがあり、都心部での工事で発生した廃棄物はここで処理しているようです。

続いて、当施設のコンセプトについてです。これは私の私見ですが、ファンハウスのテーマは「地域密着型サービスの具現化」、「農作業を通しての生きがいがづくり」の2点だと考えています。

地域密着型サービスとは、そもそも高齢者が、希望する地域で生活できるように仕組みです。対象者は、指定を受けた市町村に住んでいる要介護認定を受けている方等で、通所サービスや訪問サービス、施設サービスなど様々な形態の介護があります。しかし、そのような施設は、周辺地域住民コミュニティと密接に繋がれていないところがまだまだ多いということが課題です。元来、高齢者や障がい者の介護、介助、補助は各家庭や地域の中で行われていました。つまり、各人の暮らしのなかで営まれてきたものなのです。しかしながら近年では、暮らしやコミュニティの変容により、それがなくなってきたことでサービス化されてきたという経緯があります。

ファンハウスでは、認知症の方が自由に自分らしく生活することができるよう、外出をはじめとする活動になるべく制限をかけないサポートをしています。その中で、ある方は自転車に乗り、近所の学校の敷地内に入ってしまうことがあるようなのですが、その学校もファンハウス入居者の人柄や施設の運営方針に理解があり、一緒に支えてくれるようです。それは、近所の住民の方も共通なようで、地域全体で支え合うようすがみとれました。

また、敷地内には畑があり、実った色とりどりの野菜を収穫し調理する様子が見られました。収穫も調理も、入居者が自主的に行っています。「暮らしの中で生きる」ということを大切にしていることの表れだと感じます。



△ファンハウス全景



△ガイドをする村上さん



△敷地内の畑

## 2. 入居者の見守りと主体性の保障の葛藤

当日、ガイドをしてくださった施設長の寺田さんが、ファンハウス内の案内中に何度も話していたことがありました。それは、「入居者の自由な暮らしと、施設としての見守りのバランスをとることが難しい」ということでした。

ファンハウス内には、個室とは別に入居者がひとりになりたいときに一息つくことができる空間があります。そこは、「談話コーナー」と呼ばれ、入居者が周囲の視線から解放されるよう、スタッフルームや居間（食堂）から視ると死角に確保されています。とはいえ、見守りの観点とは相反することなので、入居者が談話コーナーから外に出る窓やドアに近づくと、フロア内にお知らせ音が鳴るように設備設計がされています。

また、1階各個室の掃き出し窓からは、入居者が自由に行き来することを施設として許容しています。転倒による怪我や、施設からの脱走のことを考えると心配になることはもちろんですが、その点も施設ではバランスをとりながら日々の暮らしを保障することを念頭にサポートをしているようです。

一方で、寺田さんは「見守りと主体性の保障は、そもそも背反構造ではない」とも話しています。確かに、暮らしの中の生活においては、孫がじいちゃんばあちゃんを見守ることは当たり前ですし、誰が何をどう考え生活しても(限度はありますが)、それは個人の自由といえます。家族というコミュニティ内では当たり前に行っていることを、ファンハウスの中でどのように展開していけるかを、今後も考えたいと仰っていました。住まいづくりに関わる者として、住まう人の想いを、葛藤や矛盾も含めて理解していくための努力を積んでいきたいと考えた企画でした。

\*\*\*\*\*

### 「はじめまして」 象地域設計 武市 望奈代（たけいち みなよ）

今年6月から象地域設計に入社しました武市です。以後よろしくお願いいたします。7年ぶりの新卒社員ということで、所員の皆さんとは年齢に開きはあるものの、のびのびと過ごさせてもらっています。

私は愛知で育ち、山口の大学で6年間学び、初の東京へやってきました。そして今はやりのシェアハウスに住んでいます。広くきれいで設備の整った都心型のシェアハウスです。年齢・職業様々な人が同じ空間に住み、一人暮らしなのに家に誰かがいる?!という面白さと安心感が私は好きなようです。

学生時代にもシェアハウスに住んでいました。こちらはおんぼろアパートを自らリノベーションしながら作りあげる学生向けのものです。一緒に映画を見たり、ごはんを食べたり、時には外からもたくさんの人を呼んで夜遅くまでどんちゃん騒いだりと「THE 学生」な思い出が詰まっています。2つの個性の異なるシェアハウスを体験し、新たな地でこれからどんな毎日を送っていくのかワクワクしています。



チュロスを持って@デンマーク



流しそうめん@学生シェアハウス



キッチン@東京シェアハウス

## 「地球温暖化について考える」(第 46 回 2024 年 8 月号)

渡辺政利

### 地球の温暖化

前々回・第 44 回に地球の気温がどのように上昇しているかについて触れました。地球の気温は、世界気象機関 (WMO) が産業革命前から 1.45°C 上昇し海水温のデータがある 65 年間で最高温に達したと発表したこと、欧州共同体 (EU) の「コペルニクス気候変動サービス」が 1850 年～1900 年平均気温に比べて 1.48°C 上昇したと発表したことなどです。「パリ協定」で取り決められた気温上昇 1.5°C 以内に納める国際的目標はその破綻が目前になっていることが実感として迫ってきます。この高温化により世界ではどのような現象が起きているか最近の新聞記事から少しだけですが拾ってみます。

6 月 2 日の東京新聞。「熱波、今月 50 億人に影響 世界各地発生確率 3 倍」と題する記事。米国の気象研究機関「クライメート・セントラル」による研究結果の発表によると、「6 月に世界各地で発生した熱波で、総人口の約 6 割に上る 50 億人近くが影響を受けた」。影響を受けた人は「人間の活動がもたらした気候変動により、少なくとも 3 倍以上に高まった」といい、調査の対象は、6 月 16 日～24 日の 9 日間。インド 6 億 1900 万人、中国 5 億 7900 万人、日本 7800 万人を含む 49 億 7000 万人が熱波にさらされたと言います。「サウジアラビアでは 6 月、イスラム教の聖地メッカを訪れていた巡礼者が 50°C を超える高温化で 1300 人以上亡くなった」「メッカは気候変動の影響がなければ、ほぼ起こりえない高温に達し、熱波の発生確率が 5 倍以上になって」いるとしています。

7 月 2 日同じ東京新聞「世界の首都 35 度超の日急増」と題する記事。「ニューデリーからジャカルタ、ブエノスアイレスまで、世界の 20 の首都で 35 度に達する日数が、過去 30 年で

52% 増加」(ロンドンを拠点とする国際環境開発研究所の分析) したことを伝えています。この記録は空港の測候所から得た 2014 年～2023 年に得た地表気温によるとしています。増加日数では、インドネシア・ジャカルタで 1994 年～2003 年の 28 日間で最近の 10 年間の 167 日に、韓国・ソウルでは 9 日から 35 日に増えたと言います。各国の首都には多くの人口が集中し「アスファルトや建物が熱を吸収し逃がさないため、気候変動による気温上昇に対して非常に脆弱です。」

以下は日本。

東京新聞の「福島・伊達で 32.3°C まだ 4 月なのに」と題する 4 月 29 日の記事では、日本では 3 月 31 日東京都心で 28.1°C が記録され今年初めての「夏日」(気温 25°C 以上の日) となり、この日は東京都はじめ千葉や栃木など関東で広く夏日を記録しました。また、4 月 28 日は東北地方から西日本にかけて広く晴れ、気温 30°C を超える「真夏日」が群馬県・桐生市、福島県・伊達市、長野県上田市、京都市で記録され、中でも伊達市では 32.3°C に達したとされます。

5 月 3 日の同じく東京新聞。「4 月気温、最高記録記録更新」と題する小さな囲み記事で、気象庁の発表として「北海道と東北、関東甲信越、北陸、東海のほか、沖縄地方では平均気温が 1946 年の統計開始以来、4 月としての最高記録を更新」「平均気温が平年を上回った幅は、北海道と関東甲信が 3.0 度、東北が 3.6 度、北陸が 2.3 度、東海が 2.6 度、沖縄が 2.7 度。西日本と奄美地方も、いずれも平年を 2.4 度上回りました。」としています。

6月末から7月10日辺りまで関東地方では猛暑日が続きました。7月5日の群馬県桐生市で37.5°Cのほか関東各地では37°C超えから35°Cなどが広く記録され、この気温は平年を4~8°C上回ったとされます。この日三重県・松坂市では39.7°Cを記録し、気象庁の持つ全国914の観測点の内162観測点で猛暑日を記録したとされました。7月9日は府中市で1976年の観測開始以来最高気温の39.2°Cを記録し、さいたま市では38.6°C。茨城・筑西市38.2°C、練馬区では38.1°Cはじめ東京都心では36°Cを記録して今年3回目の猛暑日となりました。この暑さは7月11日になってようやく納まりを見せ、東京都心で29.6°Cなどとなり、東京新聞は小記事で「久しぶり梅雨空 都心30°C下回る 10日ぶり」と見出しを立てています。今年の梅雨は関東地方では7月18日あたりに終わりとなり、その後、連日35°Cを超える猛暑日が予測されています。この記事が皆さんの目に触れる頃は異常高温の夏空となり、社会が暑さで沸騰しているかも知れませんね。

### 「長期脱炭素電源オークション」

7月11日、しんぶん「赤旗」の2面「主張」欄に『脱炭素』電源入札、原発新增設への支援をやめよ」と言う記事が載りました。原子力発電の活性化や火力発電の延命にむけての施策として日本政府の具体的動きについて全く知識が無かったものですから、驚くと共にさっそく調べてみることにしました。

「長期脱炭素電源オークション」とは脱炭素電源としての太陽光発電や風力発電など自然エネルギー利用ではなく、既存火力発電や原子力発電業者の利益維持に固執する日本政府が、「電力広域的運営推進機関」なるものを立ち上げ、多くが休止している原子力発電や一部火力発電を再活性化するため入札を実施して資金を投入しようとするもののようです。この政策は、

再生可能エネルギーによる電力料金が非常に格安になることに対抗して、原子力・火力などの巨大・高価な設備投資負担を軽減しようとするもので、その費用は結局のところ電気料金などに転化して国民負担とし、古い既存電力会社の温存を目指すものといえます。その内容はまとめてみると、

- ① 募集に応募し採択された電源事業者には運転開始から20年間建設費や人件費など固定費相当の収入が投入・保障される。この費用はすべて電力小売業者からの拠出金でまかなわれ、結局、国民の電力使用料でまかなわれる。
  - ② この投資は原子力発電に限らず、既存の石炭火力発電のアンモニア混焼への改修にも使われる。
  - ③ 10万キロワット以上の電源に限定されるため、太陽光発電や風力発電の拡充資金としては応募できない。
- となっているようです。既存の原子力発電事業などでは斜陽産業を意識して、事業を支える下請け業者や働く人々の減少が始まっているとされ、政府と電力事業者は焦りを感じているのでしょうね。

2023年7月11日付けで資源エネルギー庁が「長期脱炭素電源オークションガイド」と言う文書を公表していますが、その内容は極めて難解な日本語が使われており、私など一般国民が一読で理解できるものとはなっていない印象です。

既存の電力資本の利益を守るため、本来再生可能エネルギーの拡大・発展に使われるべき国民の財産が、原子力発電をはじめとする古い電力会社の維持のため利用されようとしています。安易に許すことを認めることは出来ません。

次回に続く

## 快適マンションライフ展

山下千佳

設計協同フォーラムは、今年設立 30 年を迎え、3 月 30 日には戸建てを中心としたセミナーをおこない、今回は第 2 弾として 7 月 27 日（土）に「快適マンションライフ展」を板橋区立グリーンホール 2 階ホールで開催しました。

講座 6 テーマとメーカーさん、施工者さんに出展の協力をしていただきパネルや商品、模型展示、資料提供をしていただきました。会場を立体的に使って、ミニ展示会になりました。

午前中は

「快適マンションライフ プロローグ」 千代崎一夫

①マンションとは？ ②チラシから読み解く ③リフォームの注意点

「ここまでできる専有部のリフォーム」

事例「間取りの変更と省エネ対策」 大力好英

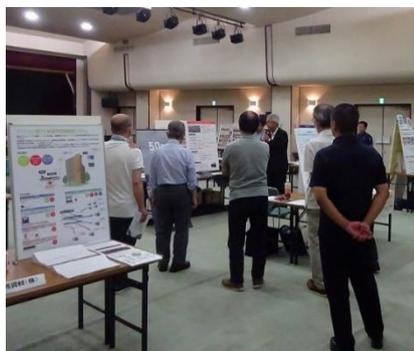
リビングを広く、収納不足の改善、断熱樹脂内窓・断熱塗料（壁・天井）

事例「スーパーワンルームへの改修」 柳澤泰博

45 m<sup>2</sup>程度の 2DK をワンルームにして広々暮らす



講座の後に展示ブースで、出展 7 社の担当の方から各 5 分間ぐらいで紹介をしてもらいました。



メーカーさんより、個別に説明を聞く来場者のみなさん

株式会社マンションコンサルティング「岩見守和のマンション関係記事」とマンション管理新聞社「マンション管理新聞」、『建築とまちづくり』誌のマンション関連の特集号なども展示しました。東海ドア株式会社が実物大の耐震ドアを展示する予定でしたが、社内でコロナ感染が広がったため、残念ながら資料のみの配布となりました。

午後の講座が始まる前に、会場であるグリーンホールが8月より大規模改修工事をするので、マンションに見立て、千代崎さんが解説をしながら見学をしました。

グリーンホールは1969年に新築され築55年になりました。2004年に耐震補強や内外装修理の他、空調などもおこなったと聞いています。



午後は「人も建物も快適に100年」 山下千佳

ドイツの世界遺産の団地、快適に住み続けるための設備改修・サッシ交換・大規模改修  
そして、設計者と実現した高齢になっても安心なトイレ・風呂のリフォーム

「地震に備えるー耐震診断から耐震補強の事例」

「管理運営・マンションデモクラシーを考える」 千代崎一夫

最後に出展していただいたメーカーさんと施工者さんの動画撮影を順番にしました。



株式会社カタヤマ



情報事務資材株式会社



新三平建設株式会社



邦友建設株式会社



YKKAP株式会社



一般社団法人マンション  
あんしんセンター



工藤建設株式会社株式会社

協力：(株)ノボタン・ジャパン



来場された方から「築40年を超しサッシを交換したい」「屋上から下階に漏水、防水の工事を早急にしたい」「給排水管工事を検討中」など、具体的な話が寄せられました。出展されたみなさんからは「お互いの情報交換もでき、また講座も勉強になった。今後の営業のヒントや仕事の連携にもつながる機会になった」という感想をいただきました。



「人も建物も快適に100年」はあらゆる職種がネットワークをつくり、良い仕事をすることで実現することを表した場になりました。詳しくはホームページで随時、紹介します。お楽しみに！

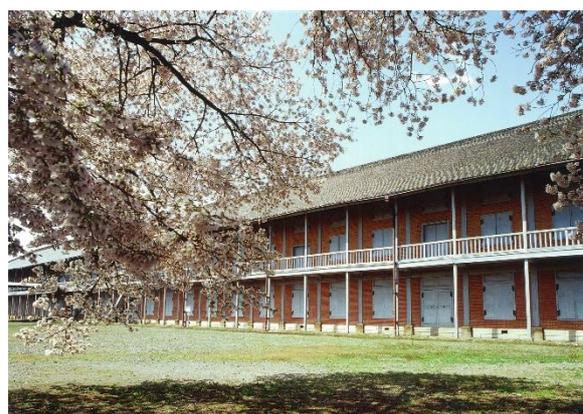
# 鋸屋根に魅せられて

群馬県富岡市 写真家 吉田敬子

今年は「富岡製糸場」世界文化遺産登録（2014年）から10周年です。私にとっては、名誉ある記念日なので、皆様に紹介します。2005年、鋸屋根ばかりを撮影している私に、出版社から連絡がありました。「写真集・富岡製糸場を出版するので、所有者の片倉工業株式会社様が写真家を探しています。弊社は吉田さんを推薦したいので、写真作品を片倉工業本社広報部に持参して頂けませんか。わかるよう先方様には話をしております。」と、突然の内容でした。2000年頃、私は富岡製糸場を撮影したくて工場を訪ねたことがありました。守衛さんに撮影許可をお願いしましたが、許可されず仕方なく自分の撮影目的などを伝え、名刺を渡して帰りました。今回の話は何かの縁かもしれない、と私は「鋸屋根工場」の写真の数枚広報部に届けました。数日後「撮影は吉田さんに決めました。」と出版社から連絡がありました。私は心で叫びました。「至誠にして動かざるは未だこれあらざるなり」です。撮影は2005年8月から翌年11月まで約1年間で、2007年8月に出版されました。撮影時のエピソードは多々ありますが、まずは富岡製糸場の歴史を短く紹介します。明治5年（1872）10月、日本最初の器械製糸場として明治新政府により開業しました。長い鎖国を経て日本が開港したのは安政6年（1859）のことです。その当時から主要な輸出品は蚕糸類でした。近代産業を興し、国を豊かにするには洋式器械製糸工場を建てて輸出する。模範工場にして指導者を育て、全国に広める。いい生糸ができれば外貨が稼げる。計画を進め、横浜にいたフランス人のポール・ブリユナという技術者に会う。日本政府は製糸工場を建てることに協力を申し出た。ブリユナは「日本の繭は優れているが生糸は駄目だ。ヨーロッパでは器械製糸が進んでいる。フランス式を入れて下さい。」

富岡製糸場内「揚返工場」大正8年（1919）建設トラス構造 2006年撮影



東繭倉庫 104,4m×12,3m 1872年完成・国宝	西繭倉庫 104,4m×12,3m 1872年完成・国宝
	
繰糸工場 140,4×12,3m 1872年完成・国宝	ブリュナ館 1872年完成
	

ブリュナとの話は進み現地視察から始め、工場立地の条件にかなう「上州富岡」を選んだ。敷地は約1万5千坪という広大な土地です。この敷地の中に、長さ140mの巨大な繰糸工場、そして104mで2階建ての繭倉庫が2棟、煙突や蒸気エンジンを備えつける蒸気釜所などと、フランス人の技術者や女性指導者たちの居住施設、ブリュナ夫妻の館も工事予定に入っていた。建物は赤レンガでつくられ、着工から1年と4か月で完成させた。そこには日本人のもつ勤勉で手先が器用、熟練した伝統職人の技があったからできた。その後民営化され、三井家・原合名会社・片倉製糸紡績と所有者が変わるが、115年間に渡り操業をつづけ、昭和62年(1987)に操業停止した。停止後の片倉は「至誠、神の如し」「何事にも誠意を尽くせば不可能はなくなる」という初代・片倉兼太郎の精神が生きていたからという。「売らない・貸さない・壊さない」の三原則をもち完璧な保存管理がなされた。富岡製糸場のもつ歴史と価値が大きく評価され、平成26年(2014)「ユネスコ世界文化遺産」に登録された。私が片倉工業様より撮影依頼を受けた時、社長・岩本さんが言いました。「富岡製糸場の建物を片倉の歴史として写真集に残したい。1年間四季を通して好きなように撮影して下さい。」私には写真家として冥利に尽きる言葉でした。あの歴史ある大きな建物を、どう写真に収めるか悩みました。操業停止になった工場は静かに佇んでいた。朝から晩まで工場を眺めた。春夏秋冬は共に生きた桜の木を選んだ。満開の桜は製糸場を桜色に染めた。花が散ると濃い緑に染まる。満月は工場を照らし工女達の声が聞こえた。落ち葉は絨毯になり製糸場は冬をむかえる。写真集は富岡製糸場の歴史を残した。片倉工業株式会社様は、この写真集を全国の図書館に寄贈しました。是非見て富岡製糸場の歴史を感じて下さい。販売は富岡製糸場の売店のみで扱っています。

## 【ベトナム紀行】ホーチミン市周辺

ベトナムへの旅行者が、昨年から今年にかけて、私の知る限り東京支部の方で4人になりました。牛山美緒さん、私、柳澤泰博さん(未発表)、そして山下千佳さんです。ベトナムファンとしては、うれしい限りです。今回は、その山下さんの紀行の様子を速報版(山下さんの FACEBOOK 掲載分)でお送りします。(7月6日から13日、ホーチミン・ホイアン・ハノイ)

アジアニュースNo.19  
(ベトナム中心) TN

【ベトナム紀行】ホーチミン市から車で約 1 時間のビンズン省にある、ベトナムで有名な建築家ヴォ・チョン・ギアの「風と水のカフェ」に行きました。2011 年アジア建築家評議会で金メダルを受賞し、一躍有名になったそうです。竹建築やグリーン建築など自然を建築に取り込み、環境に配慮した建築を提案しています。竹のしなりが素敵な空間をつくって、水と木々で心地よい風が吹くなかでおいしいコーヒーをいただきました。



【ベトナム紀行】ホーチミンの郊外のヴォ・チョン・ギアの自社ビル「アーバン・ファーミング・ハウス(Urban Farming Office)」現在は、他の方に貸しているそうです。食べられる植物を含むプランターを大量に吊るした草花は、建物の原型がわからないほど生い茂ってました。このビルの管理員をしているという青年は、プランターに登って植物の手入れをしていると話してくれました。高温多湿のホーチミンですが、緑に覆われた建物の中は涼しいとのことでした。



【ベトナム紀行】ホーチミン市内 夜も賑やか。



【ベトナム紀行】 ヴォ・チョン・ギアの作品 ホーチミン市 1 区パークソン内のユニクロのエスカレーター横に展示されている竹のインスタレーション。写真では撮りきれないのですが、なかなかの圧巻です。おしゃれなユニクロ店舗になっていました。



【ベトナム紀行】ホーチミン最大級のベトナム市場。約 13,000 m<sup>2</sup>の広い敷地内に約 2000 軒の個人商店が集まっている。食材・衣類・靴・日用品・アクセサリーという具合にカテゴリー別に細かくエリア分けられ、野菜やフルーツも種類が豊富。19 世紀末には現在よりサイゴン川の近くにあったが火災で焼失後、1912 年に鉄筋コンクリート構造で現在の場所に再建された。奥まった空間にも光が差し込み、内部の熱を外に逃がすつくりになっているらしい。



【ベトナム紀行】地上 178m 49 階からホーチミン市内を一望できる「サイゴン・スカイデッキ」市内で2番目に高いビル。



【ベトナム紀行】サイゴン中央郵便局 1891 年のフランス統治時代に建てられた。中央のアーチ部分は鉄骨造でパリのオルセー駅舎(現、美術館)を参考にしたらしい。奥は郵便局、入口と中央には土産物売り場がある。



住む人・使う人の立場で、  
住まいづくり、まちづくりを  
すすめています。



共同建替え「アリアシア鳩ヶ谷」

〒124-0001  
東京都葛飾区小菅4-22-15  
TEL : 03-3601-6841  
FAX : 03-3601-6944  
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp  
http://www.zo-3.info

株式会社 **象地域設計**

#### 新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

**住**み続けられる



株式会社  
**まちづくり研究所**

〒150-0013  
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503  
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

住む人に、環境に、優しく・・・  
さらに美しさをお届けする

## ルナファーター

五感で味わう心地よい空間・・・

ルナファーターは、環境保護先進国「ドイツ」で広く普及している塗装下地壁紙。通気性や透湿に優れ、結露やカビの発生を抑えます。紙のパターンと塗装色の組み合わせで、お部屋の演出は思いのまま。模様替えやメンテナンスもそのまま塗り重ねるだけでOK。(10回程度可能) 廃材もほとんど出ないので、環境に優しい材料です。



(輸入元)日本ルナファーター(株)  
東京都港区南青山2-9-3  
青山JPビル 2階  
TEL 03-5785-2750

施工店(有)ルナファーター・テクノ  
東京都練馬区関町東1-28-9  
NPRビル内  
TEL 03-6904-7666  
TEL 03-6904-7888

※ルナファーター・テクノの住所  
が変わりました。

# 新協建設工業株式会社

## 平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10  
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3  
台東支店 (台東)台東区台東2-25-10  
西東京支店 (多摩)日野市神明4-22-13  
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11  
石川支店 金沢市法光寺町207-4  
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450  
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472  
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380  
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581  
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874  
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570  
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728